

2026(R8)年9月町長メッセージ

「経験を、次の備えへ」

○9月6日、北海道胆振東部地震から8年を迎えました。あの日、むかわ町では尊い命が失われ、多くの住宅や道路、公共施設が被害を受けました。町民の皆さま一人ひとりにも、それぞれの「あの日の記憶」があることと思います。

○改めて、犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、これまで復旧・復興に力を尽くしていただいた多くの皆さまに、心から感謝申し上げます。今月は、震災から8年という節目に、「災害から学び、次に備えること」についてお伝えしたいと思います。

○8月、穂別地区では水道管の漏水による断水が発生しました。その後、大雨による濁水なども重なり、一部の地域では生活用水の確保にご不便とご心配をおかけしました。

○水道は、蛇口をひねれば水が出る。普段の生活では「あたりまえ」のことです。しかし、ひとたび水が止まると、飲料水だけではなく、食事、入浴、トイレ、医療、福祉など、暮らしの様々な場面に影響が広がります。

○今回の一連の対応を通じて、改めてライフラインを守ることの重要性を痛感しました。町として、初動対応や町民の皆さまへの情報発信、給水体制、備蓄など、一連の対応をしっかりと検証してまいります。そして、課題があれば改善し、同じような事態が発生した

際には、今回の経験を生かして、より早く、よりの確に対応できる体制につなげていかなければなりません。

○むかわ町は、北海道胆振東部地震という大きな災害を経験した町です。だからこそ、私は「災害を経験したこと」そのものではなく、その経験から何を学び、次にどう生かすのかが大切です。

○今年 7 月末に熊本県御船町で地震が発生した際には、むかわ町から職員を派遣しました。御船町は、平成 30 年の北海道胆振東部地震の際、いち早くむかわ町へ職員を派遣し、私たちを支えてくださった自治体です。

○今回、支援する側として現地に入った職員が、被災地の現場で何を見て、何を感じ、何を学んだのか。その経験や気づきを町全体で共有し、むかわ町の防災・減災に生かしていくことも大切です。

○災害対応に「これで十分」ということはありません。過去の災害から学ぶこと。他の地域の経験から学ぶこと。そして、自分たちの対応を振り返ること。その積み重ねが、次の災害から町民の命と暮らしを守る力になると考えています。

○一方で、防災は行政だけで完結するものではありません。大規模な災害が発生すれば、行政や消防がすぐにすべての地域、すべての家庭に対応できるとは限りません。自分や家族を守る「自助」、地域で支え合う「共助」、そして行政による「公助」。それぞれが機能することで、地域全体の防災力が高まります。

○ご家庭でも、この機会に飲料水や食料、携帯トイレなどの備蓄、避難場所や家族との連絡方法について、もう一度確認していただければと思います。

○町としても、地域防災計画や事前復興計画を基本としながら、避難体制や情報発信、備蓄、ライフライン対策など、防災・減災の取組を一つひとつ着実に進めてまいります。

○災害そのものをなくすことはできません。しかし、備えることで被害を少なくすることはできます。そして、経験から学ぶことで、災害が起きた後の対応をより早く、よりの確なものにすることもできます。

○そのために必要なのは、経験を風化させないこと、課題から目をそらさないこと、そして改善を積み重ねることだと考えています。

○北海道胆振東部地震から8年。「あの日を忘れない」ことはもちろん大切です。しかし、それと同じくらい「あの日から何を学び、何を変えてきたのか。そして、これから何を変えていくのか。」を問い続けることが、震災を経験した私たちの責任だと考えています。

○今回の断水や大雨への対応についても、課題から目をそらすことなく検証し、改善すべきことは改善する。その経験を、次の備えへと確実につなげていく。町民の皆さまとともに、災害に強く、安心して暮らし続けられるむかわ町を一步ずつ築いてまいります。

○引き続き、町政へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします